〈特集〉

EICA 未来プロジェクトの取組

佐　藤　圭　輔

立命館大学理工学部環境システム工学科　講師
（〒525-8577　滋賀県草津市野路東 1-1-1　E-mail : k-sato@fc.ritsumei.ac.jp）

原稿受付 2011.5.19　　EICA: 16(1) 26

前　書　き

EICA 未来プロジェクトは EICA に関わる若手の技術者，研究者らが集い，環境に関わる先端技術やその歴史的経緯，環境に対する考え方や取り組みを広く学習することによって，若手自身の行動をブラッシュアップしていく企画（2006 年開始で現在も継続中）である。また，技術界の最前線で働いていながらも，やや元気のない若手を鼓舞し，会社（上司も含む）の枠にとらわれることなく“自由な発想で議論できる場の設定”と“世代・業種を超えた 3 次元の人脈形成”がもう一つの目的（こちらが大きいかもしれない）であった。

これを実現するためには，どうしたら良いか？企画者である清水芳久先生（京都大学），福嶋良助氏（堀場製作所）らは後にこの企画の 1 期生となる私らとともに相談を重ねた。ただ集まって講演を聴いて，議論しろと言ってもほとんど実りがない，若手自身の土俵で主体的にコミニュケーション出来る場（技術者のためのしゃべり場）が必要だということで一致したが，一方で，我々若手だけが何かのテーマについて意見交換しても，答えがあることも知らずに堂々巡りとなり，残念ながら大学生レベルの議論に留まってしまう。そこで，“我々のテーブル（円卓）”に大先輩を招いて，まずは先輩の経験談に基づく先端技術・知識を伺い，そして与えられたテーマの議論を我々の土俵で進めていく。先輩は，不要な論議を正して下さるし，時には不適な笑み（昔の自分を思い出しているのだろうか……。）を浮かべて議論の行き先を見ている。このように本企画は，単に技術継承だけでなく，若手の技術者魂を鼓舞するとともに同分野で活躍する友（先輩を含む）を作ることにトライし，未来難題に立ち向かう若手人材の育成に取り組んだ事例として，ここにその成果を紹介する。1 期生である私のみの記事では，やや偏りも否めないので，これまでに本企画に参加した 4 名の若手に本特集記事の執筆を依頼した。以降の頁にそれぞれの個性が表れた原文記事を載せているので，是非お読みいただきたい。また，我々の成果は過去 5 年間の EICA 学会誌や 20 周年記念誌などにも掲載されているので，そちらも是非ご覧いただきたい。

さて，当時学生であった私自身の感想ではあるが，未来プロジェクトを通じて分かったことを幾つか紹介する。まず，参加者のほとんどが技術者でありながら営業マンであるという単純なことに気づいた。誰もが自らの技術や商品を理解し，熱心に紹介できるということは当たり前のことかもしれないが，それぞれ顧客もった商売人（交渉人）としての意識が強いことに私は少々驚いた。次に積極的な人（言いたがり）は少ないが，全員意見や考えを持っていて，振れば必ずしゃべる事である。振れば話すのに，何故自ら話さないんだろう……とも思った。それから，“三人寄れば文殊の知恵”が我々に当てはまらないことである。若いから発想が豊かというならば，我々は既に若くないかもしれない。冗談はさておき，我々には固定的な考え方が既に根付きつつあることが心配になった。これに気づいたことと，結果はともかくとして挑戦的なテーマに取り組んだことは，本企画の大きな成果の一つに位置づけられるだろう。

最後に，このプロジェクトのおそらくは最大の目的であり，現実に我々が得た大きな財産は，共に未来を創造する同志に出会えたことである。現在は新・未来プロジェクト（2011 年からの後継企画）の世話人として同志たちと協力し，まだまだ若手の立場を捨てずにいながら，後輩の鼓舞にも努力奮闘しているところである。今後とも，皆様の温かいご支援とご協力を切にお願いしたい。本企画の立ち上げから運営をいただいた先生方，我々が直接会話することも容易でない大先輩（講師）の方々，事務的なサポートをして下さった EICA 事務局の方々，そして未来プロジェクトの参加者の方々にメンバーを代表して深く感謝申し上げます。